

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月25日

【評価実施概要】

事業所番号	3270500279
法人名	社会福祉法人 ウェル エヌシー
事業所名	グループホーム たてがみの郷
所在地	島根県大田市波根町1290番地1 (電話) 0854-85-7272

評価機関名	特定非営利活動法人 コンティゴしまね		
所在地	島根県松江市西持田町362-42		
訪問調査日	平成19年11月 30日	評価の確定日	平成19年12月 25日

【情報提供票より】(H19年 11月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 28 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 18 人, 非常勤 人, 常勤換算	15.2 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	3 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,380 円	

(4) 利用者の概要(11月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	9 名	要介護2	6 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.5 歳	最低	77 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大田市立病院、石東病院、大澤歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域の中でその人らしくという理念があり、ホームを終の棲家とするのではなく、在宅復帰を視野にいれ、ホームのある地域だけでなく、自宅のある自治会の行事に参加したり馴染みの散髪屋へ出かけるなど、入居前に暮らしていた地域との関わりも大切にしている。帰宅、墓参り、家族との外出、買物などホームで生活を完結させないよう出かける機会を多くしている。田んぼを借りて田植えや稲刈り、収穫した米で寿司を作ったり、海岸へ釣りに出かけるなど生活の経験を再現できる機会も持っている。各ユニットで年度目標を立て、リーダーを中心に個別ケアや利用者の望む過ごし方ができるように話し合いながら取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果については職員がKJ法(問題解決の技法のひとつ)により気づきを書き出して話し合い、ユニットで目標を立てて改善に取り組んだ。また、担当したスタッフが運営推進会議で改善経過を報告している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員が個々に行い、各ユニットで話し合っている。日頃のケアを振り返り、まだできていないことについてはユニットで計画を立て、できることから取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>利用者、利用者家族、連合自治会長、地域包括支援センター、市役所等の参加があり、2ヶ月に1回開催している。前回の評価結果や自己評価の報告、パワーポイントによる生活の紹介、ホームで収穫した米で巻き寿司を作り一緒に食べたりしている。参加者からの意見やアドバイス、ボランティア活動への発展もあり効果的な会議となっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>契約内容の変更など重要な事項は家族懇談会を開催して説明している。運営推進会議で家族の思いを知ることもあり、職員で共有するようにしている。法人の玄関に意見箱があり、寄せられた意見については苦情解決委員会で話し合い、対応結果を玄関に掲示している。家族同士で話し合える時間を設けたり、気軽に相談しやすい雰囲気づくりを工夫して、得られた意見をサービス向上に活用してほしい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>法人の「地域交流委員会」で健康づくり教室や手作り教室を企画し、地区の各班に回覧を回して参加を呼びかけ一緒に活動している。自治会に加入し、公民館活動や海岸掃除への参加したり、小学校、保育所との交流、近隣の商店への買物や散歩、老健利用中の知り合いへの面会など、ふれあいの機会を大切にしている。自宅のある地域とのかかわりも継続できるようにしている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念のもと、グループホームの理念のひとつとして「地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていく」を掲げている。グループホームのある地域だけでなく、自宅のある自治会行事に参加するなど入居前の地域も大切にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念、グループホームの理念を実践するために各ユニットごとに年度目標をたて、ユニットリーダーを中心に取り組んでいる。管理者、主任は職員に理念が浸透しつつあることを実感している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人の「地域交流委員会」で健康づくり教室や手作り教室を企画し、地区の各班に回覧を回して参加を呼びかけ一緒に活動している。法人の広報紙で活動を報告している。自治会に加入し、公民館活動や海岸掃除へ参加したり、小学校、保育所との交流、近隣の商店への買物、老健利用中の知り合いへの面会などふれあいの機会を大切にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全員が行い、各ユニットで話し合っている。まだできていないことについては計画を立て、できることから取り組んでいる。前回の評価結果については職員がKJ法により気づきを書き出しユニットで目標を立てて改善に取り組んだ。また、担当したスタッフが運営推進会議で改善経過を報告している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、利用者家族、連合自治会長、地域包括支援センター、市役所等の参加があり、2ヶ月に1回開催している。評価結果や自己評価の報告、パワーポイントによる生活の紹介、ホームで収穫した米で巻き寿司を作って食べたり、畑仕事のアドバイスを得るなど効果的な会議となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	昨年、市と一緒にグループホーム部会をスタートさせており、地域密着型サービスの充実に向けて相談したり、話し合ったりしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月金銭報告に合わせて、スナップ写真を掲載したびんせんに担当から近況を知らせる手紙を書いている。法人の活動や地域向け情報を掲載した広報紙も発行している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約内容の変更など重要な事項は家族懇談会を開き説明している。運営推進会議で家族の思いを知ることもあり、職員で共有するようにしている。法人の玄関に意見箱があり、寄せられた意見については苦情解決委員会で話し合い、対応結果を玄関に掲示している。	○	家族同士で話し合える時間を設けたり、気軽に相談しやすい雰囲気づくりを工夫して、得られた意見をサービス向上に活用してほしい。ホームの生活を知ってもらうために運営推進会議で紹介したスライドの利用なども検討してみたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	年1回法人内異動があるが最小限にし、管理者、主任、リーダー等は継続している。2ユニットを1名で夜勤をするため、新しい職員は2～3ヶ月は日勤帯勤務で利用者の様子を把握し、ある程度馴染みの関係ができてから夜勤に入るようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事評価制度があり、職員は個人目標、グループホーム業務目標の2つを立て、ユニットリーダーは職員が目標達成できるように支援役も担っている。主任はケアの場面で気になることがあれば管理者、リーダーと相談しながら適切な指導をしている。管理者はスーパーバイザー的な役割もしている。夜勤専門以外は常勤職員とし、長期的な職員育成を図っている。	○	管理者は開設後4年が経過したので中堅者向けの内部研修を充実させたいという方針を持っている。また、認知症についての理解やケアについて改めて勉強会の必要性を感じており、専門性の高い職員育成に期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域の事業者連絡会グループホーム部会があり情報交換や勉強の機会を持っている。しまね小規模ケア連絡会に積極的に参加し研修やサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申込み前に見学してもらい、また、いきなり入居ではなく通所介護の利用もすすめている。入居前に訪問し、本人、家族の思いをしっかりと聞き、またケアマネからも情報を得てから受け入れている。入居時には馴染みの物を持って来てもらうようにしている。通所介護は入居者との関係を見ながら1名づつ慎重に受け入れ、現在は3名が利用している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	田植えや稲刈り、畑仕事や釣り、郷土料理など入居者の経験を活かした活動では職員は教わったり収穫の喜び、楽しみを共にしている。食器洗いは全員が職員と一緒に自分の食器を洗っているが、昼食時の盛り付けや配膳は職員が主になっており、利用者と共にやる雰囲気にならなかった。	○	食事を含めて生活の様々な場面で、職員は一方的にお世話をするのではなく、利用者が力を発揮できるような場面を工夫し、協力しあったりねぎらったりできるような関係を築いてほしい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人、家族から自宅での過ごし方や趣味、得意なことなどを聞いたり、日々の係わりの中で把握するようにしている。個人記録に「目標」「職員の働きかけ」「本人の様子や場面」「結果・気づき・提案」欄を設け本人の言葉や反応を記入することで発見が多く、声かけの仕方などケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族、本人の思いを聞いて、担当が原案を作っている。カンファレンスシートを活用し、目標を達成するためにどんなケアをするのか職員全員が記入し、細かい援助内容を決めているが、見守りや声かけなど支援が必要な部分の見直しにかかっている。家族に計画についての説明もしている。	○	本人の希望も聞きながら細やかな支援に期待したい。家族に説明はしているが、希望や意見をどのように計画に反映させるか等、介護計画についてじっくり話し合う機会の設定も検討してみたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1週間が一覧できる個人記録用紙により、目標の実践経過、日々の利用者の状態変化や職員の気づきがわかり、評価欄により介護計画の見直しに連動できるようにしている。状況の変化があれば家族や関係者と話し合い変更をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて通院の送迎や自宅のある地域の公民館行事への参加、帰省、墓参りの送迎など行い、利用者の満足度を高めるよう取り組んでいる。「住み慣れた自宅・地域での生活が続けられるように」と通所介護3名を受け入れている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は本人・家族の希望を聞き、入居前の医療が継続できるようにしている。利用者の変化や気がかりな事がある場合はいつでも相談できる体制になっており、ほとんどが定期的な往診を受けている。受診する場合はホームで送迎するが、家族も診察に立ち会ってもらうようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームを終の棲家と考えるのではなく、在宅生活への移行を視野に入れており、また、車椅子使用は設備的に困難なため入居契約時に説明している。入院した場合は家族の不安も大きいので経過を見ながら何度も話し合い、本人にとってよい形となるように支援している。重度化した場合は関係者と話し合い、その方針を職員に周知している。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉にならないように務めているが徹底できていない部分もある。入浴は異性介護を嫌がられる場合は同性で介護するようにしている。記録類を机の上に広げたまま席を立つことがあり不十分だと気付いている。個人情報については契約時に同意を得ている。	○	言葉遣いや個人記録の扱いなど、勉強会やケア会議で話し合い、対応方法の徹底に期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が望む過ごし方ができるよう工夫している。馴染みの散髪屋への外出、釣りや魚料理、畑作業、手作業や読書、買物など日々、本人の希望を取り入れた支援をしている。夜間は夜勤職員1名で2ユニット18名を援助しており、寝る前の入浴など希望に対応できないこともある。	○	午後8時以降は、2ユニットに職員1名体制であり、利用者のペースにあわせた見守りや個別ケアの現状について話し合ってみてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	夕食はユニットごとに利用者と買い物、献立、調理を行い共に楽しんでいる。ご飯は3食とも利用者が米を研ぎホームで炊いている。朝、昼の副菜は老健厨房から届き、ホームで盛り付けているが、利用者の活動の場数が少なく、又職員は弁当を食べているため食事を楽しむ雰囲気にならなかった。	○	食事が楽しみになるよう一連の流れを利用者と一緒に行えるよう声がけや場面作りの工夫が望まれる。昼食は職員と一緒に弁当を食べており、利用者が気遣う場面が見られた。法人の体制でやむをえない状況にあるが共に楽しむ工夫が望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を確認し、入浴を好まない人にも工夫した声がけをしている。夕食後の入浴を楽しむ人もある。身体的に家庭用浴槽に入れない人があり老健のスロープ付浴槽を使用するため曜日、時間に制約があり本人に理解してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	地域の行事や季節のイベントに参加したり、日記や編み物、読書、畑仕事、料理、掃除、買物、釣など役割や楽しみが持てるよう取り組んでいる。買物や出身地域の公民館活動、老健利用中の知人との面会等、地域の人との出会いも多い。田んぼを借りており、田植え、稲刈りの楽しみもある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者本位の外出支援として、毎日夕食の食材の買物、日常生活用品の買物や散歩、また家族や友人との外出など利用者の希望に応じている。ホームで生活を完結させないようにと個別の外出を多くしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の外出を察知したら、声をかけたり、一緒について行くなど見守りをしている。スタッフ会議等で鍵をかけないケアを話し合っている。玄関の戸は重いが廊下やダイニング、居室からも屋外へ自由に出れる。建物周辺は広く開放的で、敷地内で散歩が楽しめる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策については法人の防火・防災委員会で取り上げ、年2回避難訓練をしている。入居者も一部が参加している。法人内で実施しており、近隣地域への協力、参加は呼びかけていない。グループホームは夜勤1名体制だが、老健全体としての防災体制をとっている。	○	事業所だけの訓練ではなく、近隣地域の人々の理解、協力が得られるような防火・防災訓練についても検討してほしい。 グループホームは夜勤者1名体制であり、緊急時の応援体制や避難誘導手順など日頃から確認しておくことが求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量をバイタル表に記録している。摂取量が少ない人はおやつの際に補ったりしている。水分は1日1,300ccを目標にしているが少ない人は記録をして特に気をつけている。栄養バランスについては栄養士の点検、アドバイスを得ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事テーブルは適度に家具で間仕切りし、季節の花を飾り落ち着いて食事ができるようにしている。かけとユニットは炬燵が出てありなごやかな寛ぎの場となっていた。喫煙コーナーもある。ホールから広い芝生の庭にも出られ開放的で居心地のよい空間となっている。玄関は家庭的な雰囲気作りの工夫をしているが、ガラス戸は自動ドアを手動にしているためやや重い。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や必要に応じて小机や収納ケースなど使い慣れたものや趣味の小物など持ってきてもらっている。かけとユニットは和室だが、ほとんどの人がベッドを置き入口に手すりも付けている。希望者には物干しスタンドを置き洗濯物を自室で管理できるようにしている。		